

「子どもたちを救おう ～Save Our Children～」

BBS会で命を考える集い

互いを認め合う心を持つとう

十二月十七日、山田BBS会（川石睦会長・会員三十八人）ではいじめ問題や命の大切さについて考える集い「子どもたちを救おう～Save Our Children～」を開催しました。会場の町中央公民館には町民百二十人が来場し、パネル討論や意見発表などが行われました。

第一部のパネル

ディスカッションでは、「映画『待合室』が語りかける命の大切さ」をテーマに、待合室監督の板倉真琴さん、出演俳優の仁科貴さん、シネマ

とうほく社長の鳥居明夫さん、前山田高校長の主濱幸彦さんがパネリストとして登壇。

板倉さんは「子供たちに夢や何か楽しいものを一つ一つ見つけてあげれば、いじめなんてしていい暇もない。そんなことよ

触れ合うコミュニケーションゲームが大切。テレビゲームばかりではなく、子供ともっと外で遊んでほしい」と呼び掛けました。

第二部では「聞きたい！中学生・高校生の声」と題し、いじめなどの問題について佐々木崇博君、伊藤美保子さん、佐々木信吾君、内館壘さん、金子弘明君、釜石彩さんが意見発表。

いじめをなくすために佐々木崇博君は「お互いの良い点、悪い点を含めて認め合うことができればいじめは減っていくのでは

ないか」、伊藤さんは「一人一人がどんな形であれ、自分の意見をはっきり言えるような環境をつくっていくことが大事」、金子君は「自分から積極的にコミュニケーションを取ることが一番。それ

減っていくのではないか」、伊藤さんは「一人一人がどんな形であれ、自分の意見をはっきり言えるような環境をつくっていくことが大事」、金子君は「自分から積極的にコミュニケーションを取ることが一番。それ

BBS会って何？

BBSはBig Brothers and Sisters Movementの略称です。非行に陥った子どもたちの良きお兄さんお姉さんのような身近な存在となって、同じ目線で接しながら立ち直りを手助けすることを趣旨とする青年ボランティア団体です。全国に約6,200人のBBS会員がおり、それぞれの地域で少年少女との交流を通じ、非行のない社会環境づくりのため、さまざまな活動を展開しています。

が難しい人の場合は、周りから声を掛けてあげたほうがよい」とそれぞれの思いを述べました。

また、佐々木信吾君は「子供の食生活が個食、偏食に変わってきている。できるだけ家族と一緒に食事を取って会話することが大切」、内館さんは「飲酒運転による事故のニュースが目につく。子供の手本になるよう

判断力を持った行動を」、釜石さんは「子供のことを心配し過ぎるあまり、意見を聞いてくれないところがある。もっと子供の声に耳を傾けてほしい」と大人に対して訴え掛けました。

第三部では、岩手BBS連盟副会長の齊藤秀喜さんによる「8・3運動」についての勉強会が行われ、同運動の概要や青少年を取り巻くさまざまな問題についての説明が行われました。

意見発表を行った中高生の皆さん



佐々木崇博君
(山田中2年)



伊藤美保子さん
(山田中2年)



内館壘さん
(豊間根中3年)



佐々木信吾君
(豊間根中3年)



金子弘明君
(山田高3年)



釜石彩さん
(山田高3年)